

同時発表：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

令和 7 年 10 月 28 日
道路局環境安全・防災課



道路の被害状況把握に JAXA の衛星画像を活用

～国土交通省道路局と JAXA が

災害発生時の人工衛星画像データの活用に関する協定を締結～

災害発生時には、早期に道路の被害状況を把握することが必要ですが、特に夜間や悪天候の際には現地調査が困難で、十分に把握できない場合があります。

このたび、こうした課題に対応するため、国土交通省道路局と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）は、人工衛星画像データを活用した災害情報提供協力に関する協定を締結しました。

本協定により、夜間・悪天候でも広域の道路被害を効率的に把握し、初動対応（詳細調査・道路啓開）の強化を図ります。

○本協定の概要

- ・ 災害発生時の人工衛星の緊急観測体制を整備し、要請に基づき JAXA から道路局に衛星画像データが提供されます。
なお、活用される人工衛星は、現在運用中の陸域観測技術衛星 2 号「だいち 2 号」（ALOS-2）および 2024 年に打ち上げられた先進レーダ衛星「だいち 4 号」（ALOS-4）も含まれます。
- ・ 両方でワーキンググループを設置し、衛星画像データの効果的な活用手段の検討および実証実験を実施します。

<問い合わせ先>

道路局 環境安全・防災課 課長補佐 山本 健司
係長 懸川 寛史

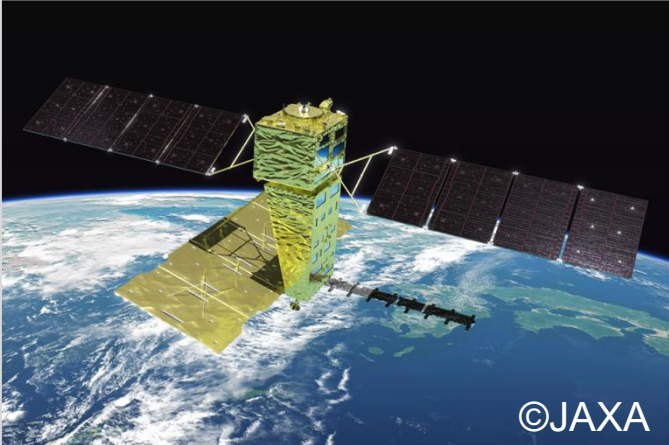
TEL：03-5253-8111（内線 38292、38285）、03-5253-8495（直通）

衛星画像データの被害調査への活用

夜間・悪天候後



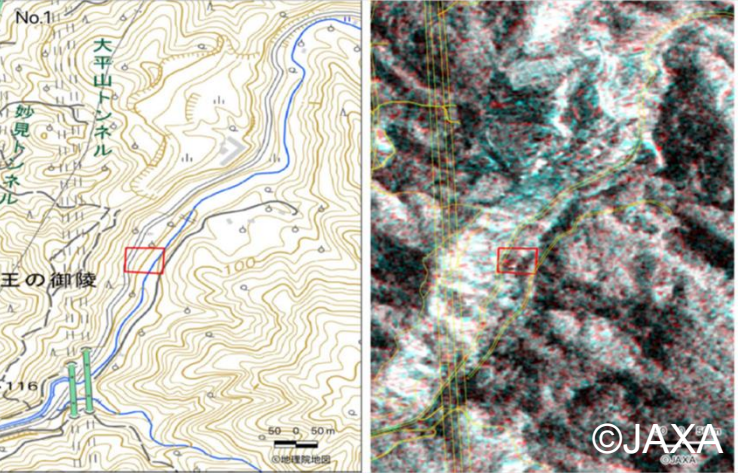
レーダ観測



©JAXA

先進レーダ衛星「だいち4号」

画像解析・判読（被害箇所の推定）



©JAXA

「だいち2号」による熊本県の道路沿いの土砂移動把握の例（2025年8月12日）

JAXA

※この地図は地理院地図に加筆したものである

- ・調査箇所の絞り込み
- ・調査ルートを検討

- ・道路啓開や災害復旧の検討

初動対応に活用

夜明け・天候回復後



ヘリ、ドローン、現地調査による詳細把握



道路啓開



©国土交通省



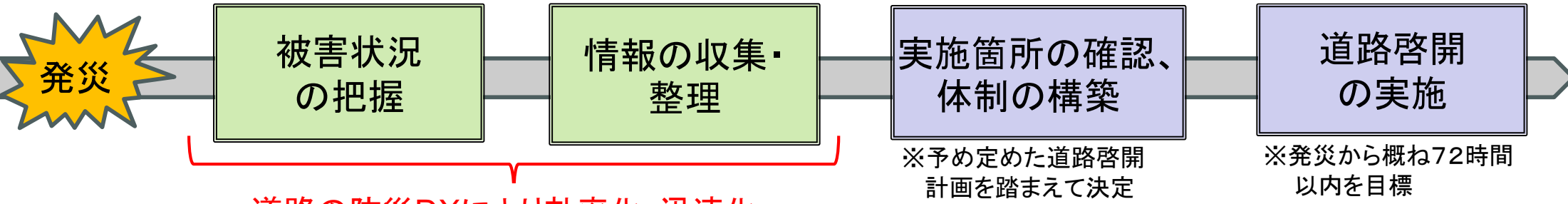
©国土交通省

国土交通省

<参考> 道路の防災DX(デジタルトランスフォーメーション)

○道路の防災DXにより、情報収集・共有を効率化し、迅速な道路啓開や復旧活動に寄与

<道路啓開の流れ>



■様々な新技術を活用した状況把握

人工衛星



ドローン



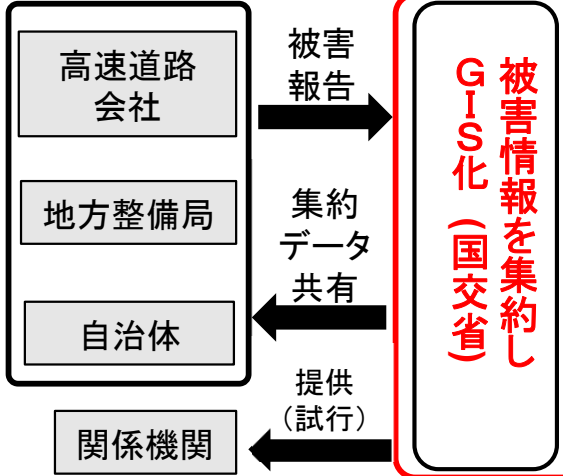
LINE



小型浸水センサ



■GISデータによる効率的な整理・共有



国土交通省ホームページで公開
<https://www.mlit.go.jp/saigai/index.html>

GISデータをオープンデータ化し、民間企業や自治体等の防災サービスへの活用も期待